

令和5年度 学校関係者評価委員会 評価結果報告

1. 日 時：令和6年2月27日（火）13：30～14：30

2. 場 所：NH0高知病院附属看護学校 応接室

3. 評価委員：

【地元企業関係者】公益社団法人高知県看護協会	会長 藤原 房子
【高等学校関係者】高知市立高知商業高等学校	校長 竹村 晃
【教育に関する有識者】	
高知県立高知江の口特別支援学校国立高知病院分校	教頭 倉光 志保
【卒業生】NH0高知病院	看護師長 岡林 裕恵

当日評価委員会欠席のため紙面での評価

【看護管理者】 医療法人須藤会土佐病院	看護部長 谷 聡子
---------------------	-----------

4. 学校関係者：

先山学校長、吉川教育主事、谷内教員、山本教員

5. 評価対象：令和5年度 学校運営方針に対する取り組み実施結果について

6. 評価基準：4段階評価及び総評自由記載

7. 事前送付資料：令和5年度学校運営方針自己評価（PP資料）、令和5年度 運営方針評価表
学校関係者評価委員会規程

8. 評価結果：

<評価基準 4:大いに達成できている 3:達成できている 2:あまり達成できていない 1:全く達成できていない>

1. 質の高い教育実践のために、教員の教育実践能力の向上と効果的カリキュラム運用を図る。	自己評価	他者評価		
1) 教材研究、授業案の充実性に重点を置いた研究授業（6回/年）の実践	4.0	4.0		
2) 研究計画書及び研究成果（2題/年）の共有と教育実践への活用	3.0	3.6		
3) 新カリキュラムの2年次の授業科目の検討と評価	3.0	3.2		
4) 実習科目のルーブリック評価の検討	3.0	3.0		
5) 教材化研修に向け、実習指導場面の教材化の視点と共有	3.0	3.2		
6) 自己のキャリアアップのためのTNADの活用	2.0	2.2		
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center; vertical-align: middle;">総 評</td> <td> 教員の教育実践力の向上に向けて、学外の研修への参加や学内の研究授業に熱心に取り組んでいる。研究授業では、丁寧な準備と実践、評価により質の高い教育、教員の資質向上につながっていると評価した。また授業の他者評価、自己評価を教員間で共有することで教員全体の教育力の向上にもつながっていると考える。 研究授業実施後の授業案については、自施設内で留めず中国四国グループ内で共有し活用することで教育の質の向上とともに、教員の負担軽減にもつながっている。 教育においてはIT活用は必須となるので、病棟でもムリムダを削減する参考にしていきたい。今後さらに進むIT化の中で、五感を使った学びも重要なものになると考える。 研究活動や新カリキュラムへの対応など着実に進められている。TNADの活用によるキャリアアップについては、今後の取り組みに期待する。 </td> </tr> </table>	総 評	教員の教育実践力の向上に向けて、学外の研修への参加や学内の研究授業に熱心に取り組んでいる。研究授業では、丁寧な準備と実践、評価により質の高い教育、教員の資質向上につながっていると評価した。また授業の他者評価、自己評価を教員間で共有することで教員全体の教育力の向上にもつながっていると考える。 研究授業実施後の授業案については、自施設内で留めず中国四国グループ内で共有し活用することで教育の質の向上とともに、教員の負担軽減にもつながっている。 教育においてはIT活用は必須となるので、病棟でもムリムダを削減する参考にしていきたい。今後さらに進むIT化の中で、五感を使った学びも重要なものになると考える。 研究活動や新カリキュラムへの対応など着実に進められている。TNADの活用によるキャリアアップについては、今後の取り組みに期待する。		
総 評	教員の教育実践力の向上に向けて、学外の研修への参加や学内の研究授業に熱心に取り組んでいる。研究授業では、丁寧な準備と実践、評価により質の高い教育、教員の資質向上につながっていると評価した。また授業の他者評価、自己評価を教員間で共有することで教員全体の教育力の向上にもつながっていると考える。 研究授業実施後の授業案については、自施設内で留めず中国四国グループ内で共有し活用することで教育の質の向上とともに、教員の負担軽減にもつながっている。 教育においてはIT活用は必須となるので、病棟でもムリムダを削減する参考にしていきたい。今後さらに進むIT化の中で、五感を使った学びも重要なものになると考える。 研究活動や新カリキュラムへの対応など着実に進められている。TNADの活用によるキャリアアップについては、今後の取り組みに期待する。			

2. 職員の学校経営に対する意識を高め、円滑で安定した学校運営を図る。		自己評価	他者評価
1) 超過勤務時間削減を目指し、ICTを活用した管理システム運用の定着化		3.0	3.2
2) 退学者・休学者なく、入学した学生が滞りなく履修できる支援		3.0	3.4
3) ペーパーレス、節電・節水の推進		3.0	3.4
4) 新刊図書の実用と不明図書ゼロを目指す		3.0	3.2
5) 物品管理を丁寧に実施		2.0	2.2
6) 防災訓練の計画的実施とアクションカードの見直し及びマニュアル作成		3.0	3.0
総 評	ICTの活用や日々の様々な経営力により、経費の削減につながっている。特に節電節水の推進が、大きな成果をあげている。これらは、学生を含め学校全体で取り組んだものと推察する。物品管理や清掃などは生活の基盤であり、日常の学校生活の中で引き続き取り組んでいく必要がある。そのことが卒業後、看護師として臨床に出た時にも活かされると考える。一方物品管理においては、学生個々の意識・行動による結果であると考えた時、今の学生が取り組める方法をシステムも含め、見直す必要があると考える。超過勤務については、人員配置と業務量のバランスが一定ではないため、現実的に一律に削減することは困難な課題であると考え、真摯な取り組みは評価できる。		

3. 国立病院機構及び地域社会に貢献できる人材の育成と人材の活用を行う。		自己評価	他者評価
1) ホームページの即時更新、魅力ある情報発信の工夫		3.0	3.2
2) 母院への就職率：30%、機構への就職率：50%、県内就職率：50%以上		3.0	3.2
3) 国家試験対策を早期から段階的に取り組み、合格率100%維持		3.0	3.6
4) 教員各自の専門性を活かした国立病院機構及び地域社会への貢献		3.0	3.4
総 評	機構への就職率が高く、また、県内への就職も目標を達成している。前年度と比較して学生数が増加している状況で、就職率をあげることができたのは入学時から学生一人ひとりを大切に教職員の関わり、指導の成果と考える。高知県の人口減少、若者の県外流出、高知県の看護師不足などから、一人でも多くの卒業生が県内で就職するよう、入学の早い段階から卒業後の進路について支援していく必要がある。また、一旦県外に出た方も数年後には高知県に戻って看護師として役割を果たしていただくことを期待している。国家試験対策は、全教員で対策を立てて学習支援ができており、高い合格率が維持できている。		

4. 学生の主体的活動を支援し、自律した学生を育成する。		自己評価	他者評価
1) 学生同士で教え合い学び合うを目指し、学生間交流の推進と学生QC活動を支援		3.0	3.4
<ul style="list-style-type: none"> ・ QC活動と委員会管轄の活動内容の整理と、無理のない活動時間の確保 ・ 主体的で計画的な学生自治会活動の支援 			
2) 看護学生としての自覚を持った情報管理ができる情報モラル・医療安全教育の推進		3.0	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ・ 段階的情報モラル教育（マトリックス作成による教育の可視化） ・ 段階的医療安全教育（気づきの力を養うから事故分析まで） 			
3) 学生個々の状況にあわせた個別相談や進路相談の実施		3.0	3.2
総 評	QC活動では母体病院の環境改善に取り組むなど、学生の主体的な活動支援ができている。コロナ禍で実施できていなかった行事を実施し、学生間の交流と主体的取り組みを支援し、学生はやり遂げた達成感を持っているのではないかと推察する。また学年混合による活動は交流と学びの機会となり、自律した学生の育成に有効であると考え、先輩後輩の姿を見ることにより自己を振り返ることやこれからのあり方を描き、志向することに繋がっていると評価した。看護の専門性を高めるには、知識の伝授がかなりウエイトを占めると考えるが、これからの学生は協働的な学びと個別最適化の中で育ってくるので指導の改善、学び方の改革が求められると感じる。学習状況、健康状態など学生個々の状況に目を向けたタイムリーな面接、保護者との連携などに取り組んでいる。		

5. 閉校に向けた準備ができる。		自己評価	他者評価
1) 41期生から58期生の学籍簿の確認と整理		3.0	3.0
2) 同窓会総会の開催、準備協力		2.0	2.2
総 評	通常の学校運営をしながらの閉校に向けた準備は大変であるが、教職員、同窓会、母体病院などとともに取り組みを進めていく事が重要である。通常業務に加え、閉校に向けた事務については着実に進めている。同窓会総会の開催については、役員の方々の主体的な取り組みが必要と考えられる。計画どおりにできない背景や学校との役割分担についてが不明のため、その点を明確化し取り組んでいただきたい。		